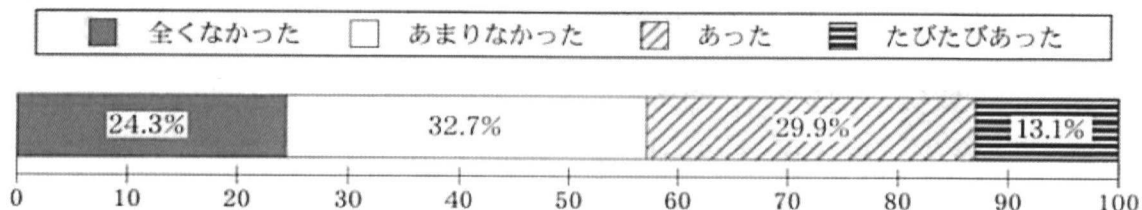
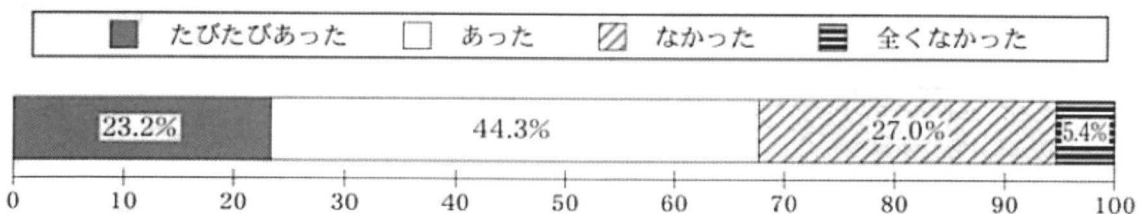


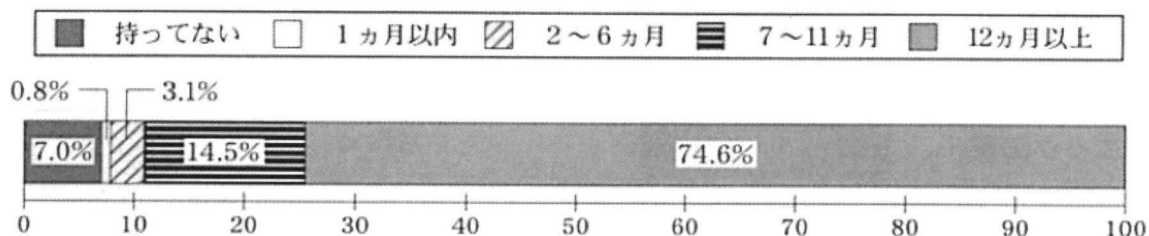
問54 自分は役に立たない人間だと考えたことは



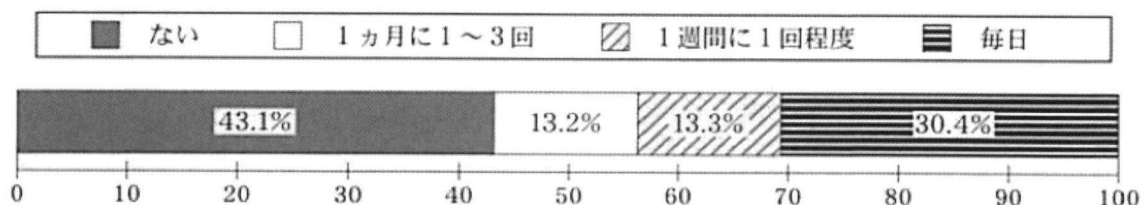
問55 いつもより幸せと感じたことが



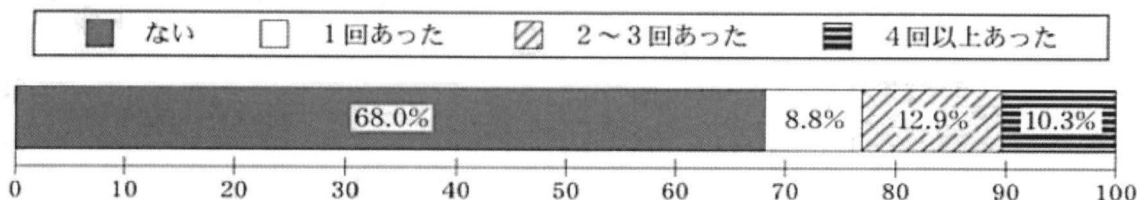
問56 自分用の携帯電話を持つようになってからどれぐらいたちましたか？



問57 夜、ねるときに明かりを消してから、携帯電話でメールや通話をすることはありますか？



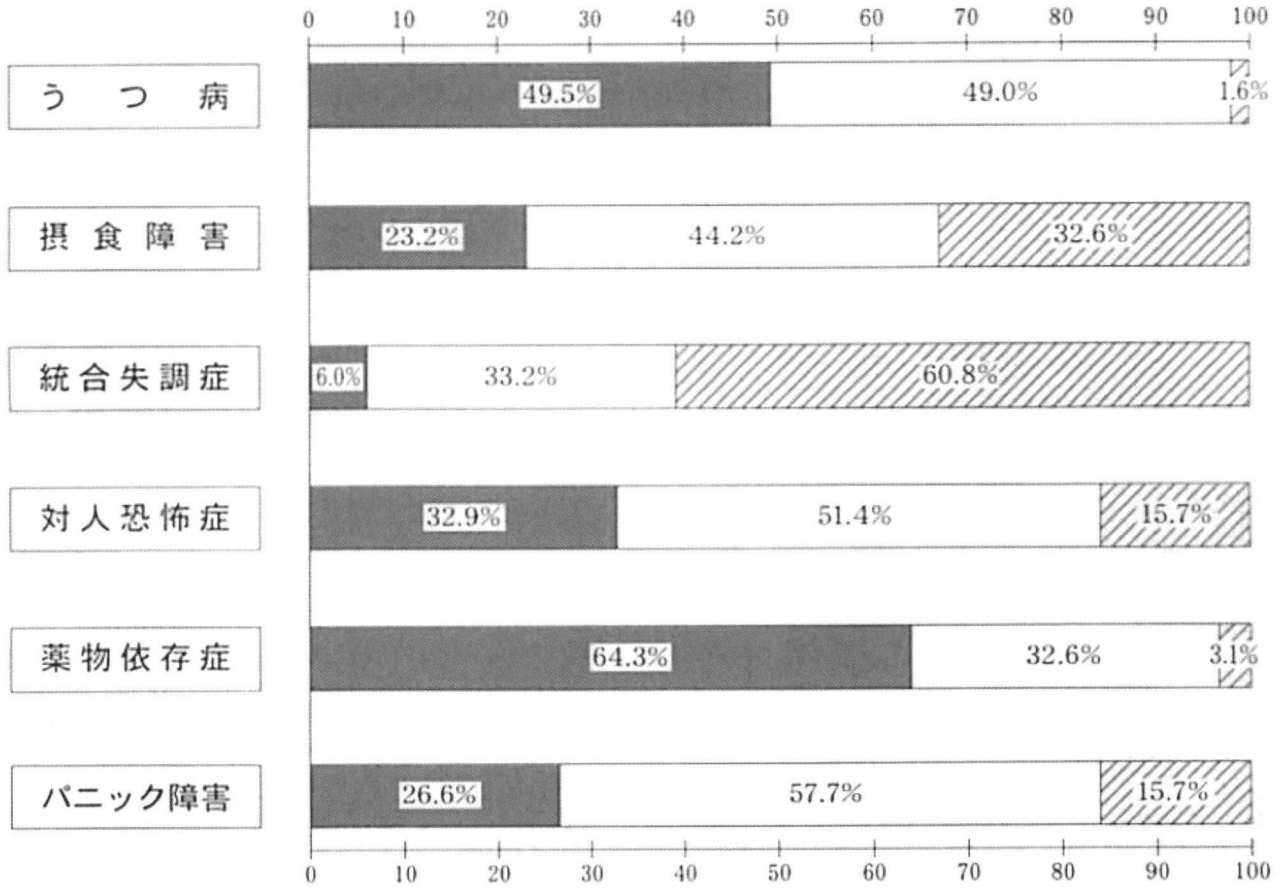
問58 この1週間に、携帯電話のメールのやりとりでイライラしたことはありましたか？



問59

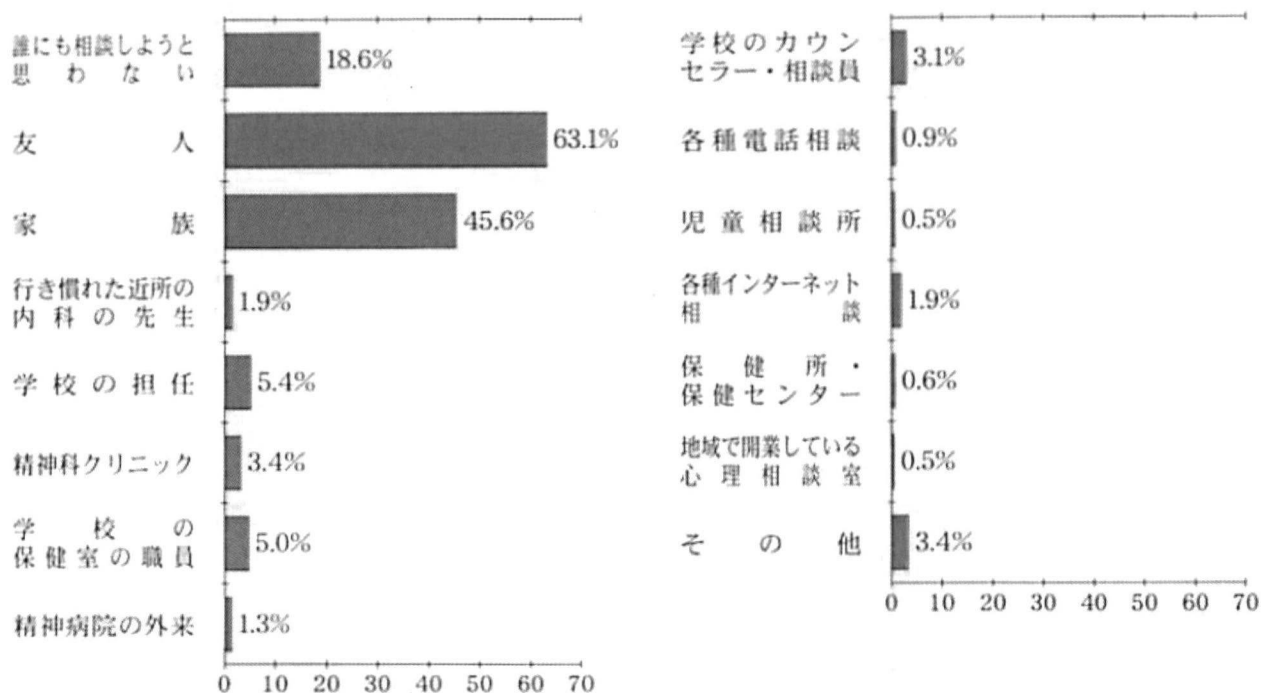
以下に若者がかかりやすい「こころの病気」の名前を示します。
 それぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○印をつけてください。

よく知っている
 名前を聞いたことはあるが、具体的なことは知らない
 聞いたこともない



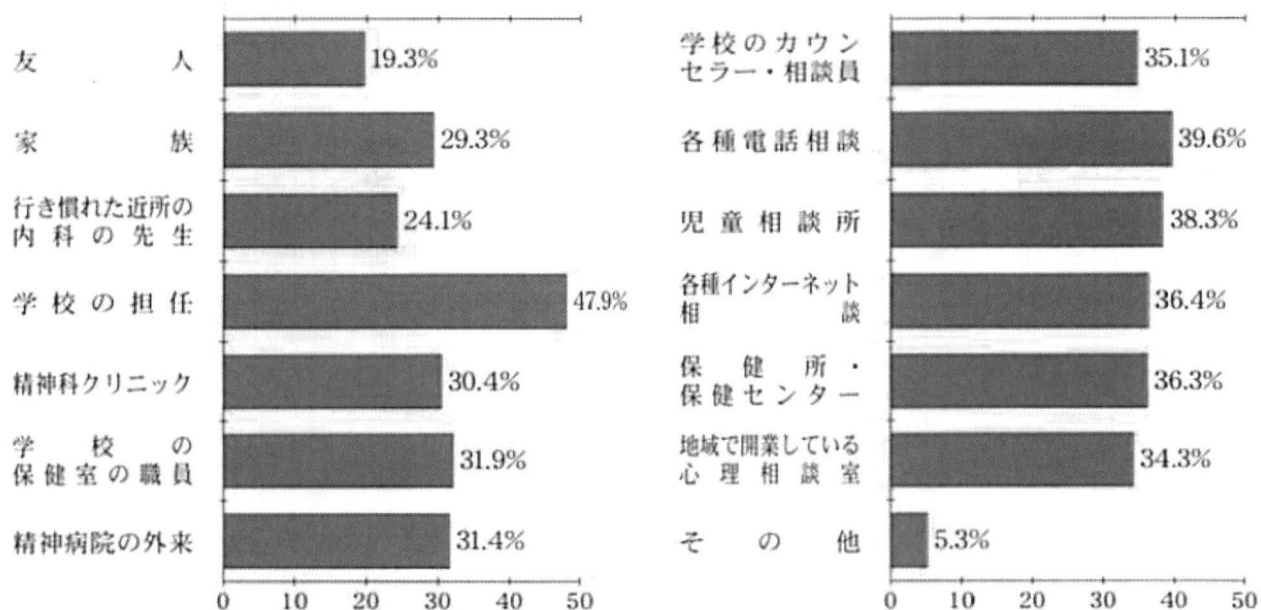
問60

あなたが何らかの精神的不調のために困った場合、最初に相談しようと思う相談相手や相談機関はありますか。
あてはまるものすべてに○印をつけてください。



問61

あなたが何らかの精神的不調のために困った場合、相談しにくい、または、相談先として抵抗のある相手や機関はありますか。
あてはまるものすべてに○印をつけてください。



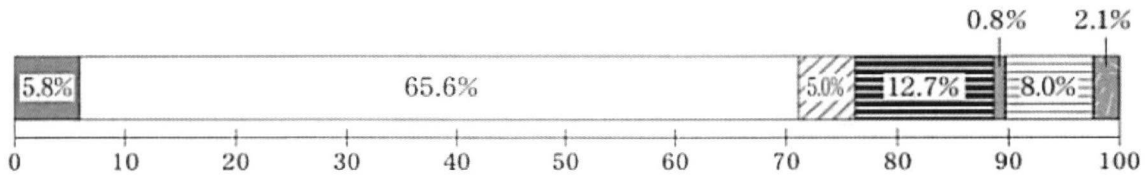
問62・問63は以下の太郎君の体験を読んで、質問にお答えください。

太郎君は、この数週間、いつもとちがって、なんだか悲しくなったり、つらい気持ちになったりすることを多く体験していました。いつも体がだるく、疲れていて、夜はしっかり眠ることができなくなっています。あまり食欲もなく、体重もやせてきています。勉強も手につかない状態です。決めなくてはいけないことも、なかなか決められず、これまでできていた毎日の勉強や仕事が、とてもつらく感じるようになっていきます。

太郎君のご家族や担任の先生などは、彼の最近の様子をととても心配しています。

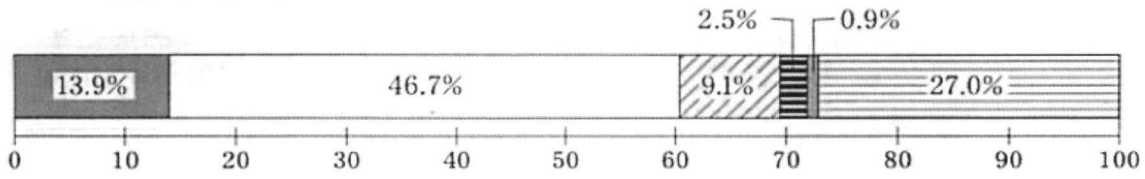
問62 太郎君は、このことを誰に相談したらよいと思いますか。もっともあてはまるもの1つに○印をつけてください。

- 誰にも相談する必要はない
- 友人や家族
- ▨ 学校の先生
- ▩ 心理カウンセラー
- 近所の内科の医師
- ▨ 精神科専門の医師
- その他



問63 太郎君の状態は、以下のうち、どれにあてはまると思われますか。もっともあてはまるもの1つに○印をつけてください。

- 別に病気ではない
- うつ病
- ▨ 統合失調症
- ▩ 摂食障害
- 対人恐怖症
- ▨ よくわからない



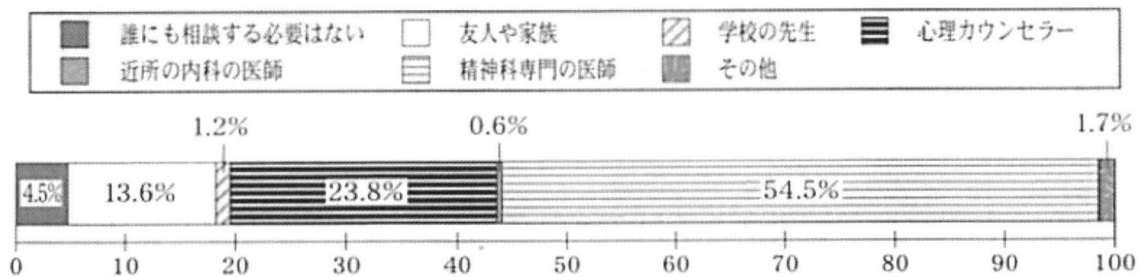
問64・問65は以下の花子さんの体験を読んで、質問にお答えください。

花子さんは、両親と3人で暮らしています。高校を卒業してから、これまでに短期間の仕事をいくつかやってきましたが、現在は、働いていません。この6ヵ月間、彼女は、友人と会うこともいっさいやめてしまい、自分の部屋に引きこもっていて、食事も家族と一緒にとることはありません。彼女の両親は、夜中に、彼女が自分の部屋の中を歩き回っていることに気づいています。

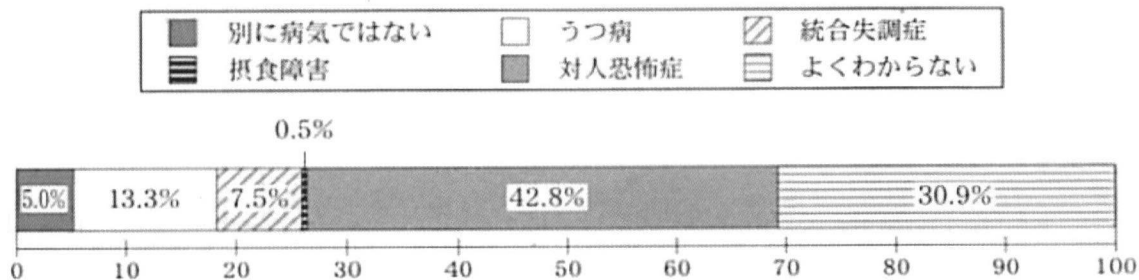
また、花子さんは自分の部屋で、一人ではいるはずなのに、突然、さけんだり、だれかと話をしたりしているような、そんな様子にご家族は気づいています。また、両親が彼女に外出するようにうながすと、彼女は「だれかに後をつけられたり、盗聴されたりしているから、そんなことは無理よ」と訴えることもあります。

彼女がドラッグやお酒を使用している様子はありません。

問64 花子さんやそのご両親は、このことを誰に相談したらよいと思いますか。もっともあてはまるもの1つに○印をつけてください。



問65 花子さんの状態は、以下のうち、どれにあてはまると思われますか。もっともあてはまるもの1つに○印をつけてください。



おわりに & 謝辞

本報告書は高校生約1万人という大規模なアンケート調査の結果です。まずはアンケートに協力をして頂いた高校生の皆様に感謝したいと思います。アンケートの実施に際して、トラブルは全く無く順調に行うことが出来ました。アンケートの実施が円滑に行えたのは高知県高等学校長協会会長高橋啓明先生をはじめ、実施を快く了解して頂いた各県の各学校の校長先生と現場の先生方のおかげです。また日頃から活発な交流のある各県教育委員会と市町村教育委員会の多大なる尽力のおかげです。この場を借りて謝辞を述べたいと思います。また東京都精神医学総合研究所、東京大学 精神保健支援室、東京都立松沢病院、高知大学医学部神経精神科学教室の多大な協力を得ることができました。関係者の皆様方に改めて深謝したいと思います。

精神疾患は他の身体疾患以上に早期発見、早期治療が重要であることが近年の様々な臨床研究などで明らかにされてきています。先駆的な対応をしている諸外国ではより早期に介入することにより発病の予防に取り組んでいます。わが国においても今後、これまで以上に早期からのメンタルヘルス対策に力を入れることを推奨したいと思います。

本アンケートの重要な結果としては、メンタルヘルスに問題を感じた生徒の相談先の多くは友人であり学校教育の中でのメンタルヘルス対策が必要だということです。また、養護教諭や心理カウンセラーなどの研修も必要なテーマであることが分かりました。メンタルヘルスの問題を扱っていくためには、精神疾患に関する誤った理解や偏見がなくなっていくよう努力していかねばなりません。この資料が今後の日本のメンタルヘルス対策の増進に貢献することを願ってやみません。

2009年10月

高知大学医学部神経精神科学教室	下 寺 信 次
東京都精神医学総合研究所	西 田 淳 志
東京大学 精神保健支援室 (保健センター精神科)	佐々木 司
東京都立松沢病院	岡 崎 祐 士

本当に気づいていますか？

思春期に多い こころとからだの “SOSサイン”



10代に多い こころとからだの問題	
■頭痛	35.2%
■腹痛	33.6%
■だるさが続く	28.8%
■幻覚や妄想	10%以上
■ストレスや精神的な問題で困っている	12.4%
■人ごみで不安になる	25.5%
■生きていても仕方がないと考えたことがある	23.0%
■現在、生きていても仕方がないと考えている	4.7%
■人前で緊張して声や手がふるえる	6.3%

うつ病や統合失調症、パニック障害など成人に多い精神疾患は中高生から始まること
が分かってきました。今回の大規模アンケート調査もそのような所見を支持していま
す。この年代の若者はメンタルヘルスの問題がありながら、保健室にいくものの体の不
調しか訴えません。学校関係者に加えて、家族が精神疾患の知識を正しく持ち、異変に
気づいたときに症状について適切に聞き出してあげることが大切です。早期発見・早期
治療で病気の経過が変わってきます。

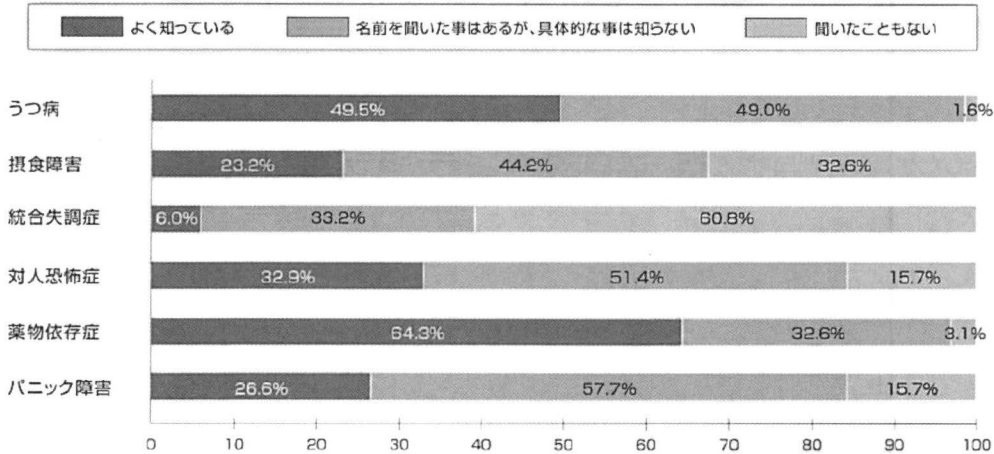
早期発見・早期支援が重要

今後、学校精神保健に携わる先生方、地域の専門医療関係者などの連携を強化し、
必要な支援策の検討がなされ、中高生のメンタルヘルス増進の取組が必要です。

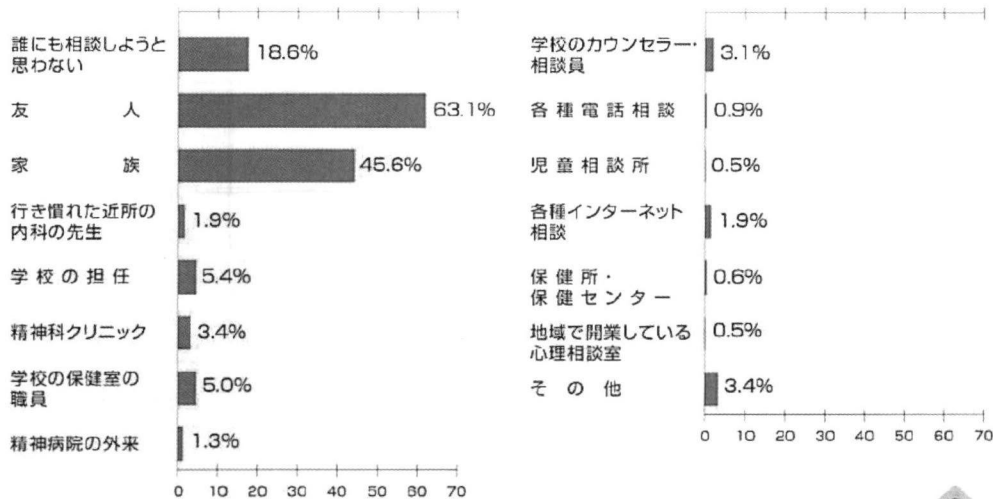


高校生のこころとからだの健康アンケートより抜粋

以下に著者がかかりやすい「こころの病気」の名前を示します。
それぞれについて、あてはまるものを1つずつ選んで番号に○印をつけてください。



あなたが何らかの精神的不調のために困った場合、
最初に相談しようと思う相談相手や相談機関はありますか？
あてはまるものすべてに○印をつけてください。



統合失調症は誰でもかかりうるにも関わらず、ほとんど知られていない精神疾患です。10代前半から起こりやすく、治療の開始は急がねばなりません。生徒の相談相手は生徒であることが多く、学校の授業あるいは地域の活動などで精神疾患の勉強をきちんと行うことが大切です。



高知大学医学部神経精神科学教室 下寺 信次
 東京都精神医学総合研究所 西田 淳志
 東京大学精神保健支援室(保健センター精神科) 佐々木 司
 東京都立松沢病院 岡崎 祐士

平成21年度分
厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業
「思春期精神病理の疫学と精神疾患の早期介入方策に関する研究」
分担研究報告書

学校ベース・地域ベースの早期介入
分担研究者 長岡 和 医療法人カメリア理事長

研究要旨

思春期児童におけるさまざまな精神病理について、生徒・若者に対して有益な情報を提供することを目的として、平成21年度に開発した生徒・若者向け啓発リーフレット等を用いて地域社会に於けるメンタルヘルスリテラシーの向上を図る。

A. 研究目的

本研究班においては思春期における精神病理体験を有する子どもの早期支援と方策を検討している。先行研究において思春期精神病様症状体験を有する子どもが多いことは明らかとなってきた。発症から治療開始までの期間(精神病未治療期間:DUP)は短いほど転帰がよいことは報告・確認されており、早期発見の重要性は明らかである。しかしその事実については一般市民や当事者となる生徒・若者の知るところとはなっていない。更に、学校教育の場面に於いても精神保健の普及啓発は手付かずの状態と言わざるを得ない。この為、生徒・若者に精神保健に関する普及啓発を行いつつ、早期発見、支援の可能性を探る必要がある。

その手段のひとつとして、地域社会に於いて平成20年度に開発した「生徒・若者向け啓発リーフレット」を実際に配布し地域に於いて、公教育の場面に於いて、スムーズに精神保健が浸透して行く素地を地域社会に創造することを目指す。

B. 研究方法

平成21年6月14日に実施された班会議の協議において、2つ(下記)の提案がなされ、それぞれを模索しつつ、検討することとなった。

(1)「中高生のための心の病気ハンドブック」配布による精神保健に関する普及啓発活動の実践

(2)「精神疾患に関する啓発のための学校教育」模擬授業の実施

(3)「学校精神保健」の重要性を広く一般国民に知ってもらう為の報道番組の作成、放送。

そこで、これらの3つの提案に対して、具体的な計画と検討、開発を進めることとした。

(1)「中高生のための心の病気ハンドブック」配布による精神保健に関する普及啓発活動の実践

これに関しては、平成20年度に開発した「生徒・若者向け啓発リーフレット」である「中高生のための心の病気ハンドブック」(別資料1)を長崎県長崎市、諫早市、大村市、東彼杵町にある中学校62校の生徒19390人に対して、配布することとした。更には、この様に学校現場に対して、「学校精神保健」といった概念をスムーズに導入する為に、各市町教育委員会や配布対象校と協議を重ね、調整を行った。

(2)「精神疾患に関する啓発のための学校教育」模擬授業の実施

これに関しては、長崎県大村市に於いて平成22年1月12日に小学6年生、中学1年～3年生児童生徒約30名に対して50分間2クールの模擬授業を行った。この模擬授業には同時に保護者も児童生徒と共に受講してもらいその授業内容への理解とその意義を体験してもらったこととした。この模擬授業には、平成20年度に開発された「精神疾患に関する啓発のための学校教育」(別資料2-①②)の為の教育キットを利用した。

(3)「学校精神保健」の重要性を広く一般国民に知ってもらう為の報道番組の作成、放送

これに関しては、TBS「報道特集」の理解と協力を得

ながら、主に医療法人カメラ 横浜カメラホスピタルに於いて入院治療、外来治療を受ける複数の思春期症例にスポットライトを当てた形で、約半年間に渡る企画、取材、撮影等を実施。そして、平成22年2月20日、TBS「報道特集NEXT」に於いて「精神症状に苦しむ子どもたち～今、求められる学校精神保健～」と題して約30分間に渡って放送するに至った。この報道によって、「学校精神保健」の重要性、必要性を広く一般国民に知ってもらう機会を得た。

C. 研究結果

(1) 「中高生のための心の病気ハンドブック」配布による精神保健に関する普及啓発活動の実践

この啓発リーフレットの開発に際しては、生徒・若者のうちまずは中学生に携帯してもらえるものであることに主眼を置きつつ、平易な内容でありながらも、思春期に発症しやすく、尚且つ、見逃されやすい疾患を考慮して、5つの精神疾患を紹介。その結果として生徒手帳に入れて置く事が出来るコンパクトなポケットサイズとした。内容に関しては簡単には下記の通りである。

「中高生のための心の病気ハンドブック」

<内容>

- 1) 精神疾患が多く、誰にでも起こりうる生物学的問題であること
- 2) 摂食障害
- 3) 恐怖症性障害
- 4) 強迫性障害
- 5) うつ病
- 6) 統合失調症
- 7) 早期介入必要性のデータ
- 8) 早期受診の促し
- 9) 相談先

この「中高生のための心の病気ハンドブック」を長崎県長崎市、諫早市、大村市、東彼杵町にある中学校62校の生徒19390人に対して配布した。長崎県大村市に於いては、配布後、2週間ほどの期間に数人の中学生がこの資料を手にしたことで大村共立病院に受診するに至った。今後、このような形でこの資料を手にした生徒が早期に精神科医療機関を受診することが期待される。また、西日本新聞社2010年2月26

日朝刊(別資料3)にて、この取り組みが掲載され、広く情報を提供することが出来た。そして、多数の問い合わせと資料請求の要望があった。

(2) 「精神疾患に関する啓発のための学校教育」模擬授業の実施

「病名は聞いたことがあるが病気の症状などは分からない」といった代表的な意見から伺えるように、生徒たちの精神疾患に関する知識は極めて乏しいものであった。しかし「うつ病」「摂食障害」といった病名は比較的多くの生徒たちが知っているのに対して、「統合失調症」「躁うつ病」といった精神病性疾患はほとんど認知されていないことが事前アンケートから知ることが出来た。この生徒たちに模擬授業を実施したところ、大変熱心に授業に取り組みつつ、授業後のアンケートでも「精神疾患のことが少し理解できた」「授業は分かりやすく楽しかった」等の意見が多数寄せられた。一方で模擬授業では保護者にも一緒に模擬授業を体験してもらった。授業後のアンケートには「非常に分かりやすい授業だった」「実際に学校で実施して欲しい」等の意見が多数寄せられ、保護者としても学校現場への授業導入を望む声が聞かれた。

(3) 「学校精神保健」の重要性を広く一般国民に知ってもらう為の報道番組の作成、放映

平成22年2月20日、TBS「報道特集NEXT」に於いて「精神症状に苦しむ子どもたち～今、求められる学校精神保健～」と題して約30分間に渡って放送され、大きな反響を呼んだ。視聴率は6.9%に達し、この視聴率から換算して約700万人の人たちがこのドキュメンタリーを視聴したことになる。これによって「学校精神保健」の重要性と日本社会に於ける思春期精神科医療の充実が急務であることを伝える事が出来た。

E. 結論

(1) 中高生のための心の病気ハンドブックを長崎県長崎市、諫早市、大村市、東彼杵町にある中学校62校の生徒19390人に対して配布。

(2) 精神疾患に関する啓発のための学校教育の重要性と意義を生徒、保護者ともに認識してもらった。そ

して、実際に学校現場に於いて同様の授業が導入されることを望む声が潜在的にあることを確認した。

(3)日本の思春期精神科医療の一端を報じつつ、今後、「学校精神保健」の創設が重要であることを伝えた。

G. 研究発表

1.論文発表

なし

2.学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1.特許取得

なし

2.実用新案登録

なし

3.その他

特記なし

生徒手帳に心の病ガイド

長崎県大村市の大村共立病院は、子どもの心の病の早期発見・治療を目指し、うつ病、統合失調

長崎・大村の病院



生徒手帳に収まるように、コンパクトにまとめた「心の病ガイド」

中学生2万人に配布 症状まとめ、病院紹介

に配布した。全国的に珍しい取り組みで、ガイドを見た複数の生徒が診察に訪れるなど早くも効果が出ているという。

作成したのは同病院を運営する医療法人カメリアの長岡和理事長や宮田雄吾副院長ら。常に携帯し手軽に利用してもらうため、生徒手帳に収まる縦8センチ、横5.5センチの14ページにまとめた。ガイドは「風邪をひいたりするように脳も不調になることがある」として、特別な病気ではないことを強調。1クラスに2〜3人の割合で、無気力や不眠などうつ病状態の人がいるなどと説明し、一番相談しやすい大人に話してみるよう呼びかけている。同病院など県内4カ所の厚生労働省指定「子どもの心の診療拠点病院」一覽も載せている。

ガイドは大村市で1月下旬から、長崎市などで2月から配布。同病院を受診した複数の生徒が「ガイドを見て病院に行こうと思った」と話しているという。

保護者と教諭それぞれに向けた「心の病気ハンドブック」(A5判)も1万部ずつ作成。11歳までに幻聴や無気力化などの精神病症状を体験した子どもは約14%とする海外データを載せ、心の病の芽は早くから現れると紹介している。ともに配布は終了している。

長岡理事長は「精神障害への偏見はまだまだ強いが、正しい知識さえあれば受診・治療へとつながる。県内全域、高校生まで範囲を広げたい」と話し、県教委などとの連携も考えているという。

厚生労働科学研究費補助金こころの健康科学研究事業
「思春期精神病理の疫学と精神疾患の早期介入方策に関する研究」
分担研究報告書

「思春期病理体験を有する子どもへの啓発手段(本)の開発に関する研究」
分担研究者 宮田雄吾 医療法人カメリア大村共立病院副院長

研究要旨

思春期児童におけるさまざまな精神病理について、親や教員、そして子ども自身に対して
情報提供を行なうために、広く読まれる啓発本の開発を行なう。

A. 研究目的

本研究班においては思春期における精神病理体験を有する子どもの早期支援と方策を検討している。先行研究において思春期精神病様症状体験を有する子どもが多いことは明らかとなってきた。発症から治療開始までの期間(精神病未治療期間:DUP)は短いほど転帰がよいことは報告・確認されており、早期発見の重要性は明らかである。しかしその事実については一般住民の知るところとはなっていない。一般住民にひろく啓発を行なうことで早期発見、支援の可能性を行なう必要がある。

そのためのひとつの手段として、本研究班の研究と連動する形で、啓発本の開発等を行なう。

B. 研究方法

最終年度となる本年は1昨年度計画された一般住民むけの本の出版の実現に加え、子ども自身も対象とした啓発本の開発を行なうこととなった。さらにその図書の内容について、他の手段によっても広く告知する方策を探った。

そこで以下の6つの計画をたて、それぞれ実現を模索することとなった。

- (1)平成19年度に執筆を開始した一般住民向けの啓発本の出版
- (2)啓発用の漫画の開発・出版
- (3)小学校中学年から高校生を対象とした絵本の出版
- (4)平成20年度に作成した「保護者向け啓発用リーフレット」「教員向け啓発用リーフレット」の配布
- (5)マスコミを活用した啓発の実施
- (6)子ども自身に対する講演による啓発の実施

(倫理面の配慮)

本中に引用されるケースについては、患者本人の了解をとったうえで、プライバシーへの配慮のため、本人を特定されないために記載範囲を限定した。その他、倫理面における問題は無い。

C. 研究結果

- (1)平成19年度に執筆を開始した一般住民向けの啓発本の出版。

学術書は専門職以外の者の目に触れることは少ない。そこで幅広い層の住民の目に触れる形での出版を行なうことを目的とし、学術書としてではなく、一般図書としての発売を行なうため、大手出版社である新潮社のノンフィクション部門から「子どもの心の処方箋～精神科児童思春期外来の現場から」のタイトルで、平成21年5月15日出版した。内容は以下のとおりである。

【はじめに】

思春期精神病様体験を有する子どもが多いことを示し、早期発見と早期治療の重要性を強調する。

【1、児童思春期外来に訪れる子どもたち】

1) 児童思春期外来

児童思春期外来の実態を記述。そのなかで精神科の役割を説明。

2) 落ち込む子ども

子どものうつ病のケースを挙げ、うつ病について解説をする。

3) こたわる子ども

子どもの強迫性障害のケースを挙げ、強迫性障害について解説をする。

4) やせたがる子ども

子どもの摂食障害のケースを挙げ、摂食障害について解説をする。

【2、子どもに戸惑う大人たち】

1) 事件をおこす子ども

子どものおこす事件や自殺の問題について、記述する。

2) リストカットを繰り返す子ども

リストカットを行なう子どもへの支援について述べる。

3) 学校にいけない子ども

不登校のケースをあげ、その対応について述べる。

4) いじめられた子ども

いじめられたケースをあげ、その対応を述べる。

PTSDについても言及する。

【3、子どもに関わる大人たちへ】

1) 子ども＝生物として捉える

知的障害、軽度発達障害、身体疾患など問題を起こす子どもの生物的背景について解説する。

2) 子どもの前で生き延びるために

問題をおこす子どもに対する際の大人の心構えについて記載する。

3) 子どものシグナルを見落とすな…？

子どものシグナルの取り扱い方や、相談のやり方について記述する。

4) 子どもの行動の背景にあるもの

問題をおこす子どもの心理的背景について推察するポイントを明示し解説を加える。

【4、子どもが統合失調症になるとき】

1) 統合失調症という病

子どもの統合失調症のケースを挙げ、顕在発症した統合失調症について解説をする。

2) 統合失調症の発症前夜

統合失調症の前駆段階にある子どもの状態について、ケースを挙げ、解説する。

【5、したたかな子どもに育てる】

1) ストレス！ストレス！！ストレス！！

ストレスの性質について述べ、ストレスに対する基本的な向かい合い方について記載する。

2) ストレスに崩れない心を育てる

ストレス状況に陥りにくい子どもに育てるために、どのような認知が有効であるかを解

説する。

【6、子ども支援と親支援】

1)子育て支援の混乱

子育て支援のありかたについて述べる。

2)親を支えるために

親を支援するに当たって、親の状況に応じて異なる支援のあり方を記述する。

【終わりに】

今回の研究班の取り組みについて述べるとともに、総論的に本全体を振り返る。

(2)啓発用の漫画の開発・出版

親や子どもが平易に読める内容の本の制作を目指し、児童思春期向けの図書を多く発売している学習研究社に企画提案。その後、複数回の企画会議を実施。結果、「ウチの子に限って！？～もしわが子が「こころの病気」にかかったら…(仮題)」という漫画と文章による解説から構成されたスタイルの本を出版することが決定した。

漫画部分は中村ユキ氏に執筆依頼した(中村氏は「わが家の母は病気です」という統合失調症の母との生活を描いた漫画がベストセラーとなった漫画家である)。漫画部分のストーリー内容についても専門性を損なわないため複数回の協議を重ねた。

文章部分は平成21年9月中旬に初稿を出版社に送付を済ませた。内容の章タイトルは以下の通りである(なお出版前に若干の変更はありうる)。

<章タイトル>

第一章 ウチの子に限って

第二章 心の病気はいろいろ

第三章 「心の病気」になったらどこへ行くの？

第四章 はじめての受診

第五章 病気と向き合う

第六章 前を向いて歩こう

今後、平成22年3月の出版を予定している。

(3)小学校中学年から高校生を対象とした絵本の出版

小学生から高校生までの幅広い年齢層の子どもに受け入れられやすい媒体として絵本を選択し、その試作を昨年実施したが、今年度はその出版を計画した。結果、情報センター出版局が出版に関心をしめし、平成21年8月9日「こころの病気がわかる絵本シリーズ」として、全5巻シリーズでの出版契約を締結した(各巻4000部の出版を予定している)。

各巻は2部構成からなる。第1部は病気の症状を分かりやすく示すようにストーリーを作成し、絵本に仕立てた。その際には子どもに恐怖や不安を与えぬよう、明るい擬人化した動物のキャラクターを用いた。第2部が病気のより詳しい説明である。文章部分も分かりやすい記述に努め、イラストを活用した。

対象疾患は「うつ病」「強迫性障害」「社交不安障害」「統合失調症」「摂食障害」とした。作画を担当する絵本作家は新進気鋭の絵本作家らの中から出版社が交渉・選定した。以下にタイトルと絵本作家名を示す。

第1巻	あさおきられないニワトリ	「うつ病」	ほりえあつし
第2巻	てあらいがとまらないアライグマ	「強迫性障害」	霜田あゆ美
第3巻	さかながこわいクジラ	「社交不安障害」	海谷泰水
第4巻	そらみみがきこえたひ	「統合失調症」	北村友弘
第5巻	ふとるのがこわいチーター	「摂食障害」	二見正直

第2部の原稿部分は8月中旬に執筆・校正を完了し、現在作画中である。

今後、平成22年1月に第1～3巻、2月に第4～5巻が出版される。

(4)平成20年度に作成した「保護者向け啓発用リーフレット」「教員向け啓発用リーフレット」の配布

それぞれのリーフレットを長崎県県央地区に位置する大村市・諫早市、それぞれの市教育委員会と協議のうえ、配布した。「保護者向け啓発用リーフレット」は公立中学校の生徒の家族、「教員向け啓発用リーフレット」内容と放送日時(予定も含む)は以下のとおりである

は公立中学校の教員に配布を依頼した。

(5)マスコミを活用した啓発の実施

本に留まらず、マスコミを利用した啓発活動を計画した。結果、NBC長崎放送のラジオ番組「満腹ワイドラジDONぶり」において毎週水曜日13時から約10分間「教えて宮田先生！こころもからだも元気トーク」というコーナーにおいてメンタルヘルスに関する情報提供を行なえることとなった。

平成21年4月8日	自己紹介と精神科医の誤解
平成21年4月15日	精神科医の仕事
平成21年4月22日	こころの病気についてよく知ろう
平成21年4月29日	ストレスってなあに？
平成21年5月6日	ストレスの向かい合い方
平成21年5月13日	相談の乗り方
平成21年5月20日	3つの宣伝
平成21年5月27日	子どものほめ方
平成21年6月3日	子どもの叱り方(その1)
平成21年6月10日	子どもの叱り方(その2)
平成21年6月17日	体罰
平成21年6月24日	体罰を受け続けた子どもはどうなるか
平成21年7月1日	おねしょについて
平成21年7月8日	お酒について(その1)
平成21年7月15日	お酒について(その2)
平成21年7月22日	お酒について(その3)
平成21年7月29日	お酒について(その4)
平成21年8月5日	お酒について(その5)
平成21年8月12日	子どもを診るときに意識すべき生物学的な問題について
平成21年8月19日	知能について
平成21年8月26日	知能があまり高くない(もしくは幼い)子どもの対応について
平成21年9月2日	軽度発達障害について
平成21年9月9日	注意欠陥/多動性障害(ADHD)について①
平成21年9月16日	注意欠陥/多動性障害(ADHD)について②
平成21年9月23日	学習障害(LD)について
平成21年9月30日	高機能自閉症について①
平成21年10月7日	自閉傾向のある子ども(=自閉性スペクトラム障害)の特徴 その1
平成21年10月14日	自閉傾向のある子ども(=自閉性スペクトラム障害)の特徴 その2
平成21年10月21日	自閉傾向のある子ども(=自閉性スペクトラム障害)の特徴 その3
平成21年10月28日	自閉傾向のある子ども(=自閉性スペクトラム障害)への対応の仕方
平成21年11月4日	摂食障害について(その1)

平成21年11月11日	摂食障害について(その2)
平成21年11月18日	摂食障害について(その3)
平成21年11月25日	摂食障害について(その4)
平成21年12月2日	社交不安障害について(その1)
平成21年12月9日	社交不安障害について(その2)
平成21年12月16日	社交不安障害について(その3)
平成21年12月23日	強迫性障害について(その1)
平成21年12月30日	強迫性障害について(その2)
平成22年1月6日	強迫性障害について(その3)
平成22年1月13日	統合失調症について(その1)
平成22年1月20日	統合失調症について(その2)
平成22年1月27日	統合失調症について(その3)
平成22年2月3日	統合失調症について(その4)
平成22年2月10日	PLEsについて

(6) 子ども自身に対する講演による啓発の実施

平成21年4月10日に大村市立桜が原中学校の全校生徒に対し、「心の病気について」と題し、講演を実施した。さらに平成21年5月10日に佐世保工業高等専門学校の1年生に対して、「心の病気について」と題し、講演を実施した。

D. 考察

メンタルヘルスの啓発本は数多く出版されているが、子ども自身が直接、読んで理解できるような内容の本は数少ない。今回、子ども自身が手に取りやすく、目で見ても理解できるようなスタイルでの啓発本の開発を行った。そのなかで「漫画」と「絵本」という従来はあまり見られなかったスタイルでの出版を達成できる見込みとなった。特に絵本については小学生(場合によってはより年少児)から理解可能なものであり、より幅広いメンタルヘルス情報の発信が可能なツール足りうと考えられた。

E. 結論

- (1)平成19年度に執筆を開始した一般住民向けの啓発本は平成21年5月15日出版した。
- (2)啓発用の漫画については、初稿送付を済ませ、平

成22年3月の出版を予定している。

- (3)小学校中学年から高校生を対象とした絵本は原稿執筆は完了し、平成22年1月に第1～3巻2月に第4～5巻が出版される。
- (4)「保護者向け啓発用リーフレット」「教員向け啓発用リーフレット」を長崎県大村市、諫早市の中学生を持つ家庭、および中学校の教員に配布した。
- (5)マスコミを活用した啓発としてNBC長崎放送のラジオコーナーにて毎週放送を実施した。
- (6)子ども自身に対する講演による啓発を実施した。

G. 研究発表

- 1.論文発表
なし
- 2.学会発表
なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

- 1.特許取得
なし
- 2.実用新案登録
なし
- 3.その他

特記なし

以上

研究班作成の「パンフレット」「絵本」の配布・広報状況について(予定を含む)

平成22年4月23日

宮田 雄吾

(1)パンフレット(生徒向け)

<配布>長崎市、大村市、諫早市 公立中学の全生徒

<広報>

1)テレビ

①H22.4.27 「ながさきナビゲーター ヒルミテ」 (NHK長崎放送)

2)ラジオ

①H22.3.30 「NHKジャーナル」 (NHKラジオ第1)

3)新聞

①H22.2.26 「生徒手帳に心の病ガイド」 (西日本新聞)

(2)パンフレット(保護者向け)

<配布>大村市、諫早市 公立中学生の全保護者

<広報>

1)テレビ

①H22.4.27 「ながさきナビゲーター ヒルミテ」 (NHK長崎放送)

(3)パンフレット(教員向け)

<配布>大村市、諫早市 公立中学校の全教員

<広報>

1)テレビ

①H22.4.27 「ながさきナビゲーター ヒルミテ」 (NHK長崎放送)

(4)絵本

<配布>

①長崎県下の全公立小学校(3月)

②長崎県下の全公立中学校(6月)

<広報>

1)テレビ

①H22.4.27 「ながさきナビゲーター ヒルミテ」 (NHK長崎放送)

②H22.4.29 「スーパーJチャンネルながさき」 (NCC長崎文化放送)

2)ラジオ

①H22.2.17 「満腹ワイドラジDONぶり」 (NBC長崎放送)

②H22.5.21 「ヒロさん・圭のきいてモーニング」 (NBC長崎放送)

3)新聞

①H22.4.5 「心の病 絵本で紹介」 (西日本新聞)

②H22.4.8 「心の病気 分かりやすく」 (長崎新聞)

※読売新聞・朝日新聞も取材予定

4)その他

①「子育て・子育て応援カタログキッズGREEN 6号」(グリーンコープ)

②医療ガバナンスNEWS」 (医療ガバナンス学会)

③いのちの電話 広報紙」 (いのちの電話)